

道路案内図

【交通機関】
J R 福山駅北口より北西へ600m
山陽自動車道、福山東 I.C. より車で20分

◆ご利用案内

- 開館時間
- 9時30分から17時まで
(ただし入館は16時30分まで)
- 休館日
- 毎週月曜日（祝日・振替休日の場合は翌日）
●年末年始（12/29～1/3）
●臨時休館日
- 入館料
- 個人 100円
●団体 80円(20名以上)
●高校生まで、65歳以上は無料



福山市人権平和資料館

〒720-0061 福山市丸之内一丁目1番1号
Tel.084-924-6789 Fax084-924-6850
jinken-heiwa-shiryokan@city.fukuyama.hiroshima.jp

常設展示
あんなに 展示室Ⅱ[人権部門]

部落の歴史と解放のあゆみ

- 部落の歴史と解放のあゆみ
- 水平社宣言、憲法第14条、同和対策審議会答申
被差別部落のおこり、民衆のくらしと立ち上がり
戦後の解放運動、解放運動資料
- 差別の現実とわたしたちの課題
- プライバシーを守る、就職の機会均等をめざして
結婚差別解消への展望、仕事・技・伝統文化
- 人権文化が根づいた社会をめざして
- 文字を取り戻す、文化を育む、出会い・ふれあい
福山人権尊重のまちづくり条例、人権標語・身元調査お断り
人権三法、福山市がめざす人権施策とその具体化
- 豊かな明日をもとめて
- 福山市民憲章、人間は尊い

団結と連帯



この腕用消防ポンプは、地域の人々の寄付により購入され、1914年から多くの人々の「団結と連帯」の心を育て、後に可搬式動力ポンプに役目を譲ってから、大切に保存されてきました。「火事だ!」の声とともに「かけ足ラッパ」を先頭に、真先に現場へ駆けつけ、その活躍ぶりは他の模範となっていました。当時の貧しいくらしと厳しい差別の中であって、自分たちだけでなく、地域全体を守るために頑張ってきたのです。

部落の歴史と解放のあゆみ

人の世に熱あれ 人間に光あれ

1922年3月3日 全国水平社創立大会「宣言」より
京都、岡崎公会堂で創立された全国水平社「宣言」のまとめの言葉です。
水平社には差別の撤廃という一点で結ばれた人々が
思想・信条をこえて結集しました。



1924年3月5日、全国水平社青年同盟西浜支部の演説会、壇上は山田孝野次郎

日本国憲法
第14条
すべて国民は、
法の下に平等であつて、人種、
信条、性別、
社会的身分又は
門地により、
政治的、経済的
又は社会的関係
において、
差別されない。



同和対策審議会 答申（1965年）

人間は尊い



『私 なにか悪いことをしましたか!』
と 絶叫のことは残して1人の娘は
自らの命を絶った
差別はおそろしい
凶器をもちいずに
人をころす

子どもが たわむれに
蛙にむかって
石を投げる
たわむれの石でも
蛙に当たれば
致命傷

差別の石も — 人間を殺す

(中略)

に ん げ ん
この偉大なもの
憐れんだりして
人間を冒涇してはならぬ

人間は 尊い

(寺本 知)

くらしを支えた仕事と巧みな技



ものみは、炎の縛解けて駆けて行く
(野間宏贈の色紙より)

靴づくりは、日本の近代化の中で、部落産業として発展してきた。一つひとつの工程を大切にきた優れた技が息づく製品は多くの人々に愛用されてきた。しかし、産業の一層の機械化は、靴職人の仕事を奪うことになったが、手づくりの持つ温もりは、今も不滅である。



農・漁業や日常の道具は、多くは竹で作られてきた。それは被差別部落の人々の巧みな技から生み出された。時が移り、私たちのくらしから消えていた竹製品が、今、美しい工芸品としてよみがえる。

人権文化が根づいた社会をめざして



■みんなでつくる差別のない時代
福山市では、まちづくりの基本理念に「人間環境都市」を掲げ、市民と行政が責任と役割を分担しともに力を合わせて魅力ある地域づくりを行う「協働のまちづくり」を推進しており、その基となるのは地域に暮らす市民一人ひとりがお互いに尊重されることです。
しかし、今なお部落差別をはじめさまざまな人権問題が存在し、また情報機器の発達など時代とともに人権問題に関する社会状況の変化により新たな人権課題も生じています。



住民学習会の一場面



「コロナ禍で差別と人権を考える」講演会

登録型本人通知制度

「登録型本人通知制度」は、戸籍謄本や住民票などが代理人や第三者に交付されたことを、早期に本人に知らせてくれます。
これは個人情報の不正取得を防止するだけでなく、身元調査など人権を侵害する行為を抑止する効果も期待されます。
「本人通知制度」の定着は、「人権尊重のまちづくり」の尺度といえます。



Fukuyama City
Human Rights &
Peace Museum



人権と平和は
21世紀のキーワード
福山市人権平和資料館

ホームページはこちら⇒





人権尊重と平和の確立は表裏一体

●シンボルマーク

入口正面のシンボルマークは、「人権を尊重することが世界平和の基礎」であることを明らかにした世界人権宣言の40周年を記念してつくられたものです。

外側の輪はオリーブの葉をかたちどったものです。ヨーロッパでは古くから「オリーブの葉」は「平和と実り」を表すものとされており、国連のマークは、この輪の中に地球が描かれています。

輪の中の炎は「いのち」を表しており、人権宣言がめざす「世界の平和と生命の尊厳」を象徴するものとなっています。

ごあいさつ

本市は、長い歴史と伝統をふまえ、備後の中核都市として、まちづくりの基本理念と「人間環境都市」と定めています。1945年8月8日、私たちは空襲によって、市街地の8割を焼失し、355人の尊い命が奪われました。

この戦災の惨禍をすべての市民が、深く心に刻んで、戦後復興に取り組んできました。そして、1955年に「原水爆禁止運動福山推進連盟」を結成し、今日まで多くの民主団体の参加を得て、幅広い平和活動を続けてきました。

一方、「水平社」の伝統を受け継ぐ同和地区の人々の「人間解放」を求める熱い思いと運動は、1965年に同和対策審議会答申を実現しました。本市でも、1972年「福山市同和対策審議会答申」が策定され、同和問題解決を市政の重点施策として取り組んでいます。

さらに、1979年からは人権意識の高揚をめざして、市民総学習運動が進められています。

こうした積み重ねを受けて、1984年に「平和非核都市」を宣言し、1986年12月議会において、「恒久平和の維持と基本的人権の尊重」を「都市づくりの基本理念」として定めました。

また、2018年に福山市人権尊重のまちづくりに関する市民意識調査を行い、その状況を踏まえて2021年に「福山市人権尊重のまちづくり条例」を制定しました。

このような本市の歴史と基本施策を踏まえて建設した福山市人権平和資料館は、2024年8月、開館30周年を迎え、展示内容を「福山市のあゆみ」「人権文化が根づいたまちづくり」に重点をおき、一部リニューアルいたしました。

今後とも、資料展示などを通して、同和問題解決をはじめとする人権の確立と恒久平和の実現が、私たちの生活にとって最も基本となる大切なことであることを、多くの皆さんと一緒に学び合っていきたいと思います。

常設展示 あんない 展示室 I [平和部門]

福山空襲の実相と戦時下の暮らし

■人権平和へのあゆみ

世界人権宣言・平和非核都市福山宣言

■福山空襲の実相

空襲の目標となった市街地・軍需工場・軍事施設、被災状況、予告された空襲、アメリカ軍に見る福山空襲、B-29、もう一つの福山空襲、実物焼夷弾、福山空襲の写真、被災地図・市民の描いた福山空襲の絵、福山市戦災死没者慰霊の像

■戦時下の暮らしと教育

しのびよる飢えと欠乏、食糧の増産、少年飛行兵、戦時下の学校生活、集団疎開の子どもたち、学徒動員、女子勤労挺身隊

■再びくり返すまいこのあやまち

平和をもとめて、世界平和へ

8月9日の朝、火照るような暑い市の中に入り、住吉町の水田の中に、母子3人の焼死体を見つけました。

母親はよつん這いになり、胸にすがりついた赤ちゃんを片手でしっかり抱きよせ、まるで乳を飲ませているようなかっこうでした。

そして、その母親の後ろ足を6歳くらいの子が両手でしっかりつかまえて、ひざまずいていました。

着物などは焼けてしまっで、遺体はまるでろう人形のようなものでした。

水田の中に入っていれば水があるので助かると思ったのですが、稲は焼け、水は枯れて母子はむし焼きになってしまったのです。

荒木計三：談



福山市戦災死没者慰霊の像（母子三人像）

被災状況

■福山への空襲は1945年3月から始まった。最初はアメリカ海軍艦載機によって、大津野村の福山海軍航空隊への機銃掃射が繰り返された。

■7月31日夜、B-29が1機飛来し、空襲予告ビラ約6万枚を散布した。

■8月8日22時25分、91機のB-29が襲来し、約1時間にわたり、556トンの焼夷弾を投下した。

●市街地焼失面積…314ヘクタール（市街地の約80パーセント）

●犠牲者数…355人

●重軽傷者数…864人

●焼失家屋数…10,179戸

●被災人口…47,326人（市民の81パーセント）



炎に包まれる市街地 絵：藤原邦子（三吉町）

敵機、夜明けの空をゆうぜんと帰っていくのをこの目で見ました。（原文のまま）

福山空襲の実相

予告された空襲



リーフレット心理作戦
Leaflet Psychological Warfare

本土空襲の第3期、アメリカ軍は焼夷弾のほかに大量の紙の爆弾—空襲予告ビラを投下した。伝單とも呼ばれたこのビラは、1945年7月27日から8月5日の間に3種類、計198万枚が32都市にまかれ、実際に半数の16都市が空襲された。



福山空襲



空襲直後の福山駅
(1945.8.9)



戦災後の福山市街
(1946)



福山戦災地図



焦土と化した市街地
(御船町より北を望む 1945.8.9)

もう一つの福山空襲



福山海軍航空隊跡
(大門町津之下)



福山海軍航空隊(当時の深安郡大津野村)



神風特別攻撃隊出撃

平和をもとめて

1954年3月1日の第五福竜丸事件をきっかけに、原水爆禁止の署名活動が全国に広がった。

福山では、被爆・空襲・多くの戦禍を経験した市民が中心となって、1955年7月20日「原水爆禁止運動福山推進連盟」を結成した。

そして、次の三原則をもとに今日まで、市長を会長に市民ぐるみの活動を続けている。

- いかなる国の核武装・核実験・核戦争にも反対する。
- 被爆者援護活動の徹底を期する。
- 福山戦災の惨禍を全市民が銘記して、平和運動の基調とする。

(連盟結成時の原文)

*第五福竜丸事件:太平洋ビキニ環礁で、アメリカの水爆実験により、静岡県焼津市のマグロ漁船第五福竜丸が「死の灰」を浴び、無線長の久保山愛吉さんが亡くなった。



原水禁活動でマイクを握る市長(1955年)



原爆・福山戦災死没者慰霊式



ニューヨーク市内を行進して核兵器廃絶を訴える被爆者たち(2010年5月)

遺跡は語る 命の尊さ

平和の大切さを見つめ直すために、市内に残る遺跡などから、忘れてはならない戦争の記憶をたどります。



陸軍歩兵第四十一聯隊営門
(現：緑町公園)



福山陸軍射撃場
(現：福山市立大学北本庄キャンパス)



焼夷弾で焼けた光善寺の軒
(東町)



顔が破損した石仏
(寺町)



火と熱風で損傷した土橋
(吉津町)

平和非核都市福山宣言

恒久平和を実現することは、人類共通の願いである。この崇高な目標の達成なくして、福山市が目指す活力と潤いに満ちた心のふれあう都市づくりの実現も、またあり得ない。

しかるに、今日の世界情勢は緊張の度を加えつつあり、世界平和と人類の生存に大きな脅威をもたらしていることは憂慮にたえない。

福山市民は、生命の尊厳を深く認識し、非核三原則が完全に実施されることを願うとともに、核武装の廃絶を全世界に強く訴え、恒久平和を求め、ここに、平和非核都市の宣言をする。

1984年（昭和59年）12月

福山市